



特集 ~いじめや不登校等の子どもの問題を考える

あなたは、みんなに見守られているんだよ…

教員とスクールカウンセラー

を通して課題を探る

「なぜ助けてあげられなかったのか」「周囲は気づいてあげられなかったのか」「いじめ等を苦に、子どもが自ら命を絶つという痛ましい事件が報道されるたび、心が痛みます。いじ

1 スクールカウンセラーと教員に聞く!

いじめ、学習、生活態度、親子関係などのさまざまな問題に直面している子どもや保護者のかかわり、教員は日夜、授業のほか、幾つもの重要な課題と向き合っています。

子どもへの対応について相談や助言を行うため、文部科学省は平成7年度から、公立学校等に「スクールカウンセラー」の配置を始め、本市でも平成13年度から中学校に、24年度からは小学校に一人ずつ配置されています。スクールカウンセラーは、「外部」から、臨床心理の専門性により選任されるため、教育の専門家である教員とは異なる立場で子どもに接し、教員と連携して教育相談を担っています。今年度から、小学校第5学年及び中学校第1学年全員を対象とした個別面接を実施しています。

同省は、児童・生徒の不登校になる状況の未然防止や不登校児童・生徒への必要な支援のあり方を検討す

教育相談室もご利用ください

いじめや勉強など、学校生活の心配悩みがあれば、市教育委員会の「教育相談室」にご相談ください(開設時間等詳しくは直接相談室へ)。子どもの相談のほかに保護者の相談も受け付けています。

◎中央相談室(教育センター内) ☎473・3667
◎滝山相談室(西中学校隣) ☎475・8909

めの根絶に向けては、国を挙げた動きがありました。平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」(いじめ防止法)が制定され、東久留米市でも平成26年第4回市議会定例会に「東久留米市いじめ防止対策推進条例案」を付議しました(12月3日現在)。

ため、「不登校に関する実態調査」平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書(平成26年7月)をまとめました。それによると、平成18年当時、不登校であった中学3年生の34%が相談していたのが「スクールカウンセラー」、続いて、「学校の先生」が29.5%でした。また、中学卒業5年後に不登校を振り返ると、その人が現在満足できる生活を送っている場合は「あの時の時間があつたら今の自分がある」と肯定的に語れますが、今の生活が自分の望むものでない場合は、どうしてもその根拠を過去の不登校に見出してしまふことが多いようです。報告書では、「不登校経験者はその後の人生の節々で自分の不登校経験と向き合い、自分なりに折り合いをつけながら、また、折り合いがつかずに悩んだり後悔を重ねたりしながら、不登校をした自分とともに生きていくという課題を抱えていることが確認されたとあります。

いじめの防止について市と学校の責務を明らかにし、市の対策を推進する組織の設置など、いじめ防止のための対策を総合的かつ効果的に推進することになりました。さて、子どもが抱える深刻な課題には、いじめにかかわること以外にも友達や家族、勉強のことなどさまざま

本市の子どもたちの状況はどうなのか。小・中学校に配置されているスクールカウンセラーと、中学校の教員に伺いました。

子どもと一緒に最善の方法を探します
市立第一小学校
スクールカウンセラー
森田 寿美

昨今のニュースでは、いじめや暴力、虐待など、子どもにかかわるさまざまな事件が報道され、保護者の中には、思わず、「自分の子育てはこれで間違いないのか。大丈夫なのか」と、不安な気持ちになる方もいらっしゃると思います。私は、カウンセラーとして、子どもたちや保護者にかかわり、また、先生方とは子どもたちの成長について話し合い、「成長支援」をしていける立場にもあります。そんな中で、子どもたちはエネルギーの塊だと思われされています。遊び合い、けんかし、協力し、そのぶつかり合いの中で子どもたちな

さまざまな理由による「不登校」もありです。今号では、各学校に配属され、心配ごとを持つ子どもの心に寄り添って見守っているスクールカウンセラーと、授業や学校生活を通して大きく子どもとかわかっている教員に話を伺い、本市の子どもの実情を考えたいと思います。

りのルールができていきます。時にはトラブルが発生したり、不適切なルールができたこともありますが、そんな時こそ、最善の方法を探していくことが、子どもたちの大きな学びとなり、成長の機会ともなります。

トラブルの解決に立ち会う機会が数多くあります。子どもたちから話を聞くと、つくづく、「この子にはこの子なりの思いがあつて、悔しくて仕方がなかつたんだ」と感じる事があります。大概、子どもには「言いつ」があるので、そんな時こそ周りがそれをつくり聞き、最善の方法を一緒に探そうとすることが大切です。そして、子どもが腑に落ちれば、スッキリして、笑顔がこぼれるのです。しかし、最近はこの状況とは異なる事情に出合つており、子ども同士それがありません。子ども同士それぞれ物事に対する考え方や感じ方は違います。育ちや生活環境、家庭の事情、性格などいろいろなことが影響していますが、その違いのために、トラブル当事者の両者が「腑に落ちる結果」に到達することが難しいのです。

公立学校には多様な環境にある生徒が在籍しており、近年の特徴としては、家庭環境の複雑さがあります。また、生徒個人については社会性の未熟さによる他者への依存傾向の高さ、上手く自分の気持ちを伝えられないなどの傾向が見られます。極端な例では、暴言・暴力という形で発散するケースが多くなっています。

そこで大切なのは、誰かが我慢するのではなく、互いの違いを認めつつ、尊重し合える関係をつくることなのです。しかし、この互

いを理解し納得するというのが、大変難しい問題となつているのも事実です。私はこのことが気になって

子どもたちは、ダイナミックな育ち合いの中でこそ、良好な人間関係を学ぶ機会が得られます。さまざまな情報が氾濫して価値観が揺らぎがちな昨今ですが、かわる大人は、本来子どもが持っている成長力を十分発揮できるように見守り、子どもたちが互いにその違いを乗り越え、理解し、尊重できるかわりづくりを支援する、そういった役割を意識することが重要になつてきたと思いま

生徒の状況を客観的、多角的にとらえていく必要があります

市立久留米中学校
スクールカウンセラー
太田 千瑞

公立学校には多様な環境にある生徒が在籍しており、近年の特徴としては、家庭環境の複雑さがあります。また、生徒個人については社会性の未熟さによる他者への依存傾向の高さ、上手く自分の気持ちを伝えられないなどの傾向が見られます。極端な例では、暴言・暴力という形で発散するケースが多くなっています。

生徒同士のトラブルの一例では、置かれている状況を認識できずに、教材や筆記用具を投げつけてしまうといった、突飛的な行動が目立ちます。これは、学級集団としての落ち着きのなさにもつながります。教員の資質が問われていますが、教員云々の前に、生徒の衝動的

な発言・行動に対して教員一人に対処していくのは難しいと感じています。学級でこういう状況が続くと、「不登校」につながる原因の一つになります。集団にいることが苦手だったり、騒がしい環境が苦手な生徒であったり、感受性の強い子どもが不登校の状況になりやすいようです。もちろん、不登校になる原因には、いじめや家庭環境といった明確な理由がある場合もありますが、不登校の生徒の多くはその欠席理由を明確に言えません。また、ネット依存などの新たな問題も増え、年々状況は複雑化してきており、教員の対応はより個別化が求められる、困難を極めています。

私は、子どもの状況を適切に把握する大切さを取り上げたいと思います。軽度の発達障害等の要素を持ち合わせた生徒が、環境が落ち着かないために集団になじめず、不登校になつてしまつております。これまでは、特別な支援が必要と思われる児童・生徒が、効果的な指導を受けられないケースもあるように思えます。例えば、学力が低いとして支援を受けていた生徒でしたが、知的能力は平均程度でありました。その後、身体的特性として、眼球運動の乏しさと集中力の問題により、学習面に悪い影響があったことが分かりました。本来、学習の未定着さは小学校中学年までには明らかになりますが、学級担任のみの観察が主になる小学校では、多角的な視点で児童の実態をとらえることが難しい傾向にあります。「低学力」「落ち着きがない」「保護者の理解が得られない」など、子どもへの

対応についてよく耳にしますが、今後はそれらの状況がどの程度なのか、客観的にとらえていく必要があります。それには、進学時に、子どもの状況を進学先にしっかりと伝えていくことを、もっと重視すべきだと思います。また、生徒の問題に取り組む際には、個々の生徒の問題を解決することに加え、その生徒が在籍する学級の構成メンバーの関係性の改善、特別な支援を必要とする児童・生徒に配慮した学級経営のあり方の助言、生徒指導を行う場の細かなルールまでも把握する必要があります。

個々の子どもへの多様な対応が求められる中、教員の努力は計り知れません。今後、小中連携のさらなる強化を望み、私はスクールカウンセラーの立場で、子どもとかわかっていたいと思ひます。

中学校における生活指導について
市立西中学校教諭
生活指導主任
木村 嘉男

「生活指導」と聞くと、どう思われますか。「問題行動を起こした生徒を叱って指導する」と、とらえる方も多いかも知れません。脇にそれてしまふような生徒を正しい方向に導くことは大切です。しかし、私は、それてしまふ前の指導こそが大切だと考えています。東久留米市では、毎月1回、市内7校の生活指導主任が集まり、情報交換を行っています。ひと昔前のように、校内暴力・学校間抗争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫

争・暴走族・深夜徘徊・喫